

2018年8月15日

東京医科大学  
理事長職務代理 常務理事 唐沢昌敬様  
学長職務代理 副学長 宮澤啓介様

入学試験における女性受験者への減点に抗議し  
被害者への謝罪と勉学の供与を求めます

日本バプテスト連盟  
性差別問題特別委員会

貴大学において、特定の官僚などの子弟に裏口入学がなされたことに続き、一般入試で女子受験者、浪人生以外には加点をし、合否を操作していた事実が明らかになりました。このことに強く抗議します。

日本の医療を担う貴大学の教育の根底に性差別があることは明らかです。貴大学を志望校とし、研鑽をつんで来た受験生が公正であるべき試験において、実力よりも「性」によって不合格にされたことを知ったらどれほどのショックを受けたでしょうか。医療に志のある女性たちが切られていく現実を今回の貴大学の事件で目の当たりにしました。

女性医師が増えると、出産や育児で勤務時間が短縮され、病院運営に支障をきたすことが理由のようです。出産や育児は本人たちの選択です。女性が働くことに対する意識改革、また社会的にジェンダー意識の改革が求められます。性差を越えて共に社会をつくり担っていくことが望ましいと思います。貴大学がなしている性差による入試操作はそのような流れを、阻むものです。

ある新聞記事によるとフランスでは、大学医学部での女性の割合が 64.1%、フィンランドでは、女性医師のパーセンテージが 57%です。日本では大学医学部での女性の割合が 40%、女性医師は 18.1%です。女性排除の教育界、経済界等々、女性への差別をなくす抜本的対策がとられることを強く望みます。

最後に今までの、不正操作によって不合格にされた方がたへの謝罪を望みます。その中で、今なお医療への志ある人に勉学の供与を求めます。